



大和田 加代子  
(碧 い 風)

## 公共交通網の整備は

### 新たな移動サービス検討中

質問 通院等を考えると免許返納ができないという声を聞く。本市の対応はどうか。

答弁 本年4月にBRT、路線バス、デマンド交通の路線図と時刻表が一体となった「りくぜんたかた交通マップ」を全戸に配布し、市内公共交通の一層の周知に努めている。また、横田町をモデル地区とし、住民主体の新たな移動サービスの協議・検討を始めている。

質問 「支え合い交通」を立ち上げたいと思う地域住民に対し、書類作成、登録までの各種サポートが必要と考えるがどうか。

答弁 地域の方々からこういうことをやりたいと声が上がれば、しっかりとサポートしていきたい。

### 復興祈念公園の防災は

質問 9月18日に行われた、道の駅「高田松原」、津

波伝承館合同の避難訓練から見た課題と対応は何か。

答弁 大地震発生直後の混乱した状況下では、スタッフが大声を出しても避難誘導の指示が伝わらない可能性があることから、ハンドマイクやメガホンを使用した避難誘導が必要。また、地震発生直後のパニック状態にある方々を冷静に避難させる方法を、専門家を交えて検討していく。

質問 奇跡の一本松から避

難目標地点の気仙大橋西交差点まで、私の足で17分かかる。気仙大橋のたもとまでは13分。地震発生直後に避難を開始したとしても、13分経過している状況で、津波が来るかもしれない気仙大橋を渡ることにどう考えるか。

答弁 最短で一番標高の高いところに行けるルートをとっている。橋の安全性についても関係機関に確認済である。

質問 短時間で避難できる津波避難タワーの建設についてはどう考えるか。

答弁 これは科学的に言っても津波到達まで30分から40



りくぜんたかた交通マップ



大坂 俊

## 総合戦略の効果は

### 今後も交流人口の拡大に期待

質問 総人口と高齢化率の現状はどうか。

答弁 本年9月末現在の人口は、1万8959人

答弁 毎年度、策定会議を開催し、推進状況や事業の実施報告及び目標指標の進捗よく管理等を行って

道の駅「高田松原」及び高田松原津波復興祈念公園がオープンしたこと、今後、交流人口の拡大が予想され、観

176人で、達成率88%となっており、目標値については、概ね達成するものと見込んでいる。

個別施策に係る成果指標については、複数の項目において、目標値の達成を見込んでいるが、「U・Iターン等の移住定住や雇用拡大」に係る項目については、目標値の達



交流人口の拡大が期待される道の駅

高齢化率についても、同様に推計値41・6%に対し、現状値は39・0%であり、来年度末にかけての推移を考慮しても推計との大きな差異はないものと認識している。

質問 総合戦略の目標管理と効果検証はどうか。

答弁 「観光入込数」については、最終年度の目標値100万人に対し、4年目となる昨年度の実績値は、51万6056人、達成率51・6%となっているが、先月、

質問 成果目標の達成状況はどうか。

答弁 「観光入込数」については、最終年度の目標値100万人に対し、4年目となる昨年度の実績値は、51万6056人、達成率51・6%となっているが、先月、

光入込数の増加が期待される。

「出生数」は、5年間累計の目標値6000人に対し、4年間累計の実績値は402人で、達成率67%。また、「新規雇用者数」についても、5年間累計の目標値2000人に対し、4年間累計の実績値は

### 緑地の管理は

質問 土地区画整理事業地内の緑地の管理はどうか。

答弁 緑地の管理について

は、事業計画の段階で関係課との協議を行い、管理区分を定めており、整備後においては、その管理者が、除草及び倒木の処理などの適切な維持管理を行うなどしながら、良好な住環境の維持に努める。



藤倉 泰治  
(日本共産党)

## 国保税率改正の状況は

### 運営協に引き上げを諮問中

質問 来年度の国保税について「税率改正を含めて検討」としているが、引き上げは避けるべきではないか。

答弁 この15年間は改正していないが、平成29年度から国保基金繰入で運営せざるを得なくなり、本年度予算でも約1億600万円の基金繰入を予算化した。本年度末の基金残高は1億8千万円の見込み。国保税率引き上げについて、現在、国保運営協議会に

諮問している。

質問 国保税は子どもにも均等割2万5千円が課税されるが、一般会計からの繰り入れはできないのか。

答弁 18歳以下の被保険者は310人であり、金額は775万円になるが、世帯所得により軽減がある。繰入は現実的には検討していない。

### 震災後の財政運営は

質問 震災後の財政運営の

状況はどうか。

答弁 復興交付金や震災復興特別交付税等を活用し安定した推進ができた。地方債残高は平成22年度の約145億円から平成30年度は約116億円と29億円減少した。

### 地域資源の活用は

質問 本市の林業、木材加工業は気仙川流域として全国的評価も高い。実績はどうか。

答弁 気仙木材加工協同組

合連会やけせんプレカット事業協同組合は堅調な実績を維持し、平成30年度両社の製品生産量約9万㎡、従業員数約220人と地域雇用を支える優良な企業となっている。

質問 若い担い手育成の職業訓練校再建はどうか。

答弁 職業訓練協会とも協議し、市街地南側かさ上げ端部縁側エリアに再建すべく、9月に県へ補助申請した。令和2年度内に整備、3年度の開校を目指している。

質問 慰霊、追悼し、全国の人たちと交流できるまちなかの通りも地域資源と思う。空き地の有効活用など今後の考えはどうか。



けせんプレカット高田工場

答弁 駅からアムウェイハウス、追悼施設等を通って本丸公園の通りは当初から回遊の軸線である。アパッセ駐車場の空き地は市管理地であり、大変貴重な場所だ。商工会やまちづくり会社と一番良い選択を検討している。